

まずはココから！ 外貨商品の種類と特徴を押さえよう

地域金融機関 預かり資産研修担当者 小山 美樹 ①～⑥
産業能率大学講師 木内 清章 ⑦

ここでは、金融機関で取り扱う外貨商品を挙げ、それぞれの特徴や、メリット・デメリットを解説します。

1 外貨預金

為替変動リスクと手数料がかかる点に注意

外 貨預金とは、米ドルや豪ドル、ユーロなどの外貨で預金することをいいます。日本円を外貨に交換して預け入れ、一定期間運用した後、外貨を日本円に交換して払い戻すというのが一般的です。

外貨預金商品は、主に以下の3つに分けられます。

「外貨普通預金」は、預入期間の定めがなく随時入出金が可能です。為替変動のタイミングを狙ったアクティブな運用を希望する方に好まれています。

「外貨定期預金」は、決められた預入期間の満期まで原則中途解約はできません。その代わりに外貨普通預金よりも高い金利が設定されていることが一般的です。最低預入金額や、預入期間は金融機関によって設定が異なります。預け入れる金額に応じ

て適用利率が変動する商品もあります。

「外貨貯蓄預金」は、預入れから一定期間が過ぎれば、入出金が自由にできるようになりま

す。残高に応じて適用利率が変動する商品もあります。

円預金より高金利

外貨預金の主な特徴としては以下の4つが挙げられます。

- ① 円預金よりも高金利
日本と外国を比べると、一般的には外貨のほうが日本円よりも金利が高い傾向にあるため、より高い金利収入が期待できます。株式や投資信託の配当金は運用成果によっては支払われな
- ② 為替変動リスクがある
円預金よりも高金利の金利収入は確実に受け取るこ
- ③ 為替手数料がかかる
日本円と外貨の交換には為替手数料がかかります。一般的には預入時・払戻時の両方に手数料がかかるため、為替で利益が出ていたとしても、それが少額であった場合、手数料を差し引くとマイナスになってしまう可能性があります。
- ④ 預金保険制度の対象外
円預金は金融機関が破綻した場合でも元本1000万円までとその利息が保護されますが、外貨預金はその対象になりません。

2 外貨建て株式

自由度が高い分留意すべきリスクも多い

外 貨建て株式（外国株式）とは、海外の証券取引所に上場している株式で、外国籍の企業が発行しています。主な特徴は以下のとおりです。

① 投資地域が広い

新興国から先進国まで、様々な投資地域があります。一般的に、先進国は政治経済が安定しているためリスクが小さく、新興国は経済の急成長が期待できる反面、政治経済が不安定なため急激な価格下落リスクもありえます（カントリーリスク）。

外 貨建て投資信託とは、外貨で取引される投資信託であり、基準価額や分配金などが外貨で表示されます。その多くは海外で設定・運用される外国籍投資信託（外国投信）です。主な特徴は以下の3つです。

3 外貨建て投資信託（ETF）

リスクを抑えながら手軽に分散投資が可能

- ① 高金利
日本より高い海外の金利で運用されるため、円建てよりも高い利回りが期待できます。
- ② 為替変動リスクがある
外貨建てであるため、円換算での受取金額が変動します。為替相場が円安局面では受取金額が増加するため、投資信託の運用益と併せて、利益がさらに大きくなることが期待できます。
- ③ 手軽に分散投資ができる
円建ての投信と同様、ひとつのファンドに複数の銘柄が含まれているため、個別企業の株式を購入するよりもリスクを抑えながら分散投資ができます。また、海外の市場動向や個別企業の調査・分析を自身で行うのは大変ですが、投資する金融商品を専門家が選んで運用してくれるため、比較的容易に外貨投資に取り組めるといえます。

海外ETFとは？

また海外の証券取引所に上場している投資信託を海外ETF（Exchange Traded Fund）上場投資信託）といいます。海外ETFは、海外の代表的なインデックス（指数）に連動するように設計されています。

市場に上場しているため、投信でありながら株式と同様に値動きを見ながら売買ができる点や一般的な投信に比べ概ね低コストである点がメリットです。

④ 留意すべき点がある

為替差損を被る場合も

② 選択肢が多い
海外には、世界的な大企業や成長性が著しく高い企業、日本にはない産業など、有望な投資先が多くあります。世界の優良企業に投資することで、日本株よりも大きな株価の上昇や高い配当が期待できます。

③ 取引時間が日本と異なる
日本と海外では時差があるため、株式の取引時間が異なります。例えば、東京証券取引所の取引時間は9時～15時ですが、ニューヨーク証券取引所の取引時間は日本時間で23時30分～6時です。国内市場では取引できない時間帯に取引できる点はメリットといえます。

③ 手軽に分散投資ができる
円建ての投信と同様、ひとつのファンドに複数の銘柄が含まれているため、個別企業の株式

② 選択肢が多い
海外には、世界的な大企業や成長性が著しく高い企業、日本にはない産業など、有望な投資先が多くあります。世界の優良企業に投資することで、日本株よりも大きな株価の上昇や高い配当が期待できます。

③ 取引時間が日本と異なる
日本と海外では時差があるため、株式の取引時間が異なります。例えば、東京証券取引所の取引時間は9時～15時ですが、ニューヨーク証券取引所の取引時間は日本時間で23時30分～6時です。国内市場では取引できない時間帯に取引できる点はメリットといえます。

③ 手軽に分散投資ができる
円建ての投信と同様、ひとつのファンドに複数の銘柄が含まれているため、個別企業の株式